

# グローバル通信

Ryukoku University

GLOCAL TSUSHIN

2022.07 vol.59

確かな未来「次なる茨木」に向けて	1
時代の潮流変化とこれからの金融のあるべき姿	1
白須委員長挨拶	2
地域公共人材総合研究特別演習担当者からのメッセージ	2
2022年度特別演習 新入生紹介	3
2021年度の修了生	4
修了生の今	4
グローバル通信編集スタッフ紹介	4
事務局インフォメーション	4

新学期が始まり3ヵ月がたちました。真っ白な入道雲と青空の美しいコントラストが、この時期ならではの楽しみのひとつとなってきましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、今回のグローバル通信59号では、「特別演習担当の先生方からのメッセージ」、「新入生の自己紹介」、「修了生の今」など、地域公共人材プログラムの過去から現在がよく分かる内容となっています。

今年も修士論文の「中間報告」が終わり、これから研究が本格的となっていくかと思えます。しっかりと食生活と睡眠を取り、夏を乗り切りましょう。



## 確かな未来「次なる茨木」に向けて

福岡 洋一

(茨木市長)

茨木市は、大阪府の北部に位置する北大阪地域の中核となる都市です。昭和23年(1948年)の市制施行以来、交通環境の利便性や豊かな自然環境に恵まれた、多くの魅力を生かし、着実に歩みを進めてまいりました。

昭和45年に開催された大阪万博の玄関口として急速に発展し、現在、人口は28万人を有し、増加を続けています。

また、本市には、古墳や史跡など貴重な歴史文化財が数多く残り、文化的伝統がまちに息づいています。日本人初のノーベル文学賞作家、川端康成は本市の名誉市民で、幼児期から旧制中学校卒業までを本市で過ごし、この時期に文学への志を深めました。市では、川端康成が学んだ教育のまちを掲げ、教育委員会と学校現場が一体となって、全ての子どもへの学力を向上させる「一人も見捨てへん教育」に積極的に取り組んでおり、全国的に注目を集めています。

本市では、「次なる茨木へ。」というブランドメッセージを掲げ、住み続けたいまちとして市民の皆さんに選ばれるよう施策を展開しています。

100年に一度の大雨から市街地を守るために建設された「阿威川ダム」は、今春、堤体が完成し、今後、観光拠点とするため、魅力的な周辺整備を進めてまいります。そして、令和5年秋には、市中心部にホールや図書館、子育て支援など、さまざまな機能を備えた複合施設「おにくる」が完成します。色々な発見や出会いがある、誰もがすぐやすく、訪れたい「立体的な公園」のような場を作ります。

こうした中、貴学とは、平成21年4月に、地域連携協定を締結し、地域社会が求める高度な識見を有する人材の育成に向けた相互協力に取り組んでおります。貴学の地域公共人材総合研究プログラムでは、地域課題解決に必要とされる専門的な理論や実践的手法を習得する様々な機会が提供され、そこで学んだ職員は、現在、本市のDX推進やまちづくり等の分野で活躍しております。

今後とも、貴学との相互連携を一層進め、高度専門人材の育成に取り組み、市民の皆さまが「豊かさ・幸せ」を実感できる「次なる茨木」の実現に邁進してまいりますので、引き続きのご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 時代の潮流変化とこれからの金融のあるべき姿

榊田 隆之

(京都信用金庫理事長)



京都信用金庫は、1923年(大正12年)に創立され、来年創立100周年を迎えます。

1971年に「コミュニティ・バンク」という理念を掲げて以降、「コミュニティ」の発展を一番に考え、人々の絆を育むことを使命としてきました。

当金庫は創立100周年を目前に控え、お客様が抱える課題や悩みに寄り添い、人と人、事業と事業をつなぎ、共に価値を創造することを実現していきたいと考えています。

現在、世界は大きく変化しています。繰り返される景気循環ではなく、パラダイムシフトが起こっており、様々な変化に対応できる柔軟な人材を創っていくことが大切になります。コロナ禍で、財務支援のみならず、本当に困っていらっしゃるお客様に対して誠実に向き合い、親身になって寄り添うこと。これが当金庫のテーマとしている「おせっかいバンカー」の在り方です。

当金庫が関係性を深めていくべきセクターの3つの「S」先

- ①スモール(小規模事業先)
- ②スタートアップ(創業間もない先)
- ③スランプ(経営支援先)

この3つに加えて、金融包摂に取り組んでいかなければならない4つ目の「S」先は

- ④ソーシャル企業

世のため人のために地域ぐるみでソーシャルな地域社会の実現を目指すソーシャル企業を支援し、その風土を地域社会に広げていくことです。そのために、ソーシャル企業認証制度を開始し、次にソーシャルグッド預金を開始して、預金がどのような社会課題の解決に利用されているかを預金者が決められる等、社会をより良くするための取組みも実施しています。

時代の潮流変化と共に今の時代は、多様で、複雑化していますが、逆にコミュニケーション力で変化を起こせるシンプルな世界だと考えており、対話がとても大切になってきます。貴大学とは、ソーシャル企業認証制度を通じて地域をソーシャルなものに変えていくというとても未来志向で大学と金融機関のコラボとして理想的な関係性だと考えています。今後も人材育成や様々な分野で連携を図りながらソーシャルマインドあふれる地域の共創を一緒にお手伝いしていきましょう。

# 地域を支え、地域をリードする地域公共人材の育成を目指して

地域公共人材総合研究プログラムは、研究科横断型大学院修士課程として13年間の歴史を持つNPO・地方行政コースを引き継ぎ2016年4月にスタートし、現在は法学・政策学の2つの大学院の共同運営研究プログラムとして運営しています。

人口の減少と高齢化が進展する中で、日本の各地域が持続的に発展するためには、それぞれの地域が持つ歴史や文化を生かし、新たな魅力を創り出すことが何よりも大切です。このプログラムの目的は、こうした地域を支え、地域をリードする地域公共人材(高度専門的な知識と実行力を有する人材)を育成することにあります。

プログラムの特長は、研究科を横断した公共政策の広がりに対応するカリキュラムにより、理論と実践を架橋する研究・教育を展開していることです。学部卒の院生、地域間連携協定を締結した自治体やNPO・経済団体から推薦される社会人院生などが、豊富な経験を有する専門教員のもとで共に学び成長する環境が整備されています。その代表的な授業が地域公共人材総合研究特別演習です。グローバルな視野を持ちつつ、暮らしの基盤となる地域に足場を置いて考え、行動する地域公共人材がこのプログラムを通じて育ち、全国で活躍することが我々の目標です。

本プログラムは、新しい未来を創る意欲にあふれる人たちを待っています。是非、ともに学びあいましょう。



地域公共人材総合研究プログラム運営委員長  
白須 正  
(龍谷大学政策学部教授)

## 地域公共人材総合研究特別演習担当者からのメッセージ



松尾 秀哉  
(龍谷大学法学部教授)



白石 克孝  
(龍谷大学政策学部教授)



渡辺 博明  
(龍谷大学法学部教授)



細川 孝  
(龍谷大学経営学部教授)

### 再び出会いと対話の場へ

本学に着任し、この演習を担当するようになって5年目になりました。少しずつコロナ対策にも慣れ、私たちは再び直接出会い、議論できる環境で新学期をスタートさせています。しかし世界は混沌としており、ロシアのウクライナ侵攻や、それにも起因する経済的制約のなかにあります。改めて今思うことは、そのタイミングでここに集うことになった私たちは、今こそ学ぶことをやめてはならないということです。この出会いに、それぞれ何か意味があるような気がしてなりません。

授業では、それぞれが背負った課題を語り合い、知見を広げる。そして今考えていることが、この混沌とした世界でどういう意味をもつのか、と思索してください。ただ受け身的に聞いたりするだけでなく、また一方的に自分の体験談を話すだけでなく、自分の体験や問題意識が他の人にどう聞こえて、どういう普遍的意味を持つのか考えていく。それが学術論文という成果につながるでしょう。同時にそれを通じて、私たちはよき仲間にもなれます。相手への「聞こえ方」に注意してください。この演習が皆さんにとって実り豊かなときでありますように、少しでも力になれるようにと祈っています。

### 出会いと学びのユニークな場

地域公共人材総合研究プログラムのコアをなすのが必修の特別演習です。専門性も所属も異なる教員が複数で指導し、現職の社会人院生と若手院生・留学生院生とが学びます。課題意識や経歴は様々かもしれませんが、社会の課題に主体的に立ち向かおうとしている皆さんが参加します。各自の研究テーマは文字通り多様ですが、いろいろな角度からスポットライトが当てられることで、課題が立体的に浮かんでくるということを何度も味わってきました。多彩な院生が互いの出会いに刺激され、新しい学びのスタイルが生まれていると自負するものです。

本年度は対面を基本に開講しています。昨年まではオンラインもしくはハイフレックス開講も多く、その経験から、出会いの場としての質の確保は、やはり対面型でないと難しいと感じています。

対面講義にどうしてこだわるのかと言えば、職場も違い、年齢も違う人との出会いは、社会人院生になるほど貴重だからです。人のネットワークづくりは本プログラムの狙いとするところでもあります。新しい友人づくりとも言えるでしょうか。講義を人生にも活用してください。

### 社会人院生の熱意に支えられた充実した議論の場

コロナ禍による混乱を経験した大学の授業も、ようやく落ち着きを取りもどしつつあります。パンデミックの下で学んだことや身に付いたスキルもありますが、やはり学問においては対面でのコミュニケーションが大切だと気づかされました。

この演習は、以前から、自治体やNPOでの豊かな経験と実践的な課題をもって集まる社会人院生と、独自の問題関心と強い探究心を抱いて学部から進学する院生の皆さんによる、ユニークで活気に満ちた議論の場になってきました。教員にとっても、毎回示される様々な分野の論点にどう切り込み、論文作成につながる助言ができるか、その力量が試されるかのような緊張感があり、大学らしさを存分に味わえる貴重な機会です。こうした本演習の特色は、「コロナ」の影響でオンラインとなった時期をも乗り越えて続いています。これからも、多様な参加者がそれぞれに刺激しあい、高めあえる空間を大事にしながら、ともに学んでいきましょう。よろしくお祈りします。

### 他研究科教員の「ひそかな」楽しみ

「地域公共人材総合研究特別演習」を担当するのは、今年度で6回目になる。2017年度は後期のみであったが、翌年度からは1年間を通して隔週で水曜日の夜の2コマを、もう一人の担当教員(2018年度以降は白石克孝教授が担当されている)とともに担当している。

すでに経営学研究科の地域産業コースは廃止されているので、昨年度からの受講生は全員が政策学研究科の院生である。そのようなことでタイトルに「他研究科教員」と記している。そして、「ひそかな」というのは半ば冗談では半ば本気のことである。

わたしの専攻は経営学なのだが、関心が広いため多様な組織の経営について学んでいる。実際に企業や地域を訪問する機会も多く、「現場」には強い関心をもって、そのような者からすると、この特別演習で報告される内容はとても刺激的である。

そのうえで大切なことは、多くの受講生が1年間(実際には入学後、約9カ月)で論文を仕上げなければならないことを踏まえ、それぞれの良さを伸ばし、論文としての形式を整えていくように「伴走」していくことと思う。今年もこのような「楽しみ」を得られたことを有難く思っている。

本コースに新たな新入生が入学されました。特別演習ごとに新入生の自己紹介と集合写真を掲載しております。

## 土曜日クラス

### ①伊藤悠希

③地域における中小企業の人材育成について関心があります。社会では企業の人材不足が課題とされていますが、その中で地域人材を育て、高い成果を出している企業が持っている競争力の源泉とは何なのかが知りたいです。マネジメント視点から研究し、普遍的な知見にするために尽力出来ればと思います。

### ①佐々木靖子

②広告代理店(大和ブランド推進協議会推薦)  
③『花街の事業継承問題』をテーマにその要因分析と解決の為の施策を調査研究いたします。観光資源としての花街の価値と花街の持続可能性を保つ要素、花街を観光プロモーションする必要性なども改めて考察して、世界に誇る京都の文化を保全し、まちの活性化に貢献できる研究を目指したいです。

### ①安井大斗

③研究テーマは、日本における社会的インパクト評価・測定の成立とその可能性についてです。社会的インパクトを測るという取り組みを、日本で行うことになった歴史から、事業評価や、政策評価への応用可能性までを明らかにしたいと考えています。他にも、様々な分野に関心があり、授業では様々な分野を学びたいです。

### ①吉田 匠

③地方都市郊外住宅地のコミュニティに関心をもってしています。現在、大都市だけでなく日本各地の郊外住宅地は急速な高齢化によって、様々な問題が顕在化しています。しかし、郊外住宅地の課題は多様化しており、行政だけでは対応できるものではありません。どのような仕組みが課題解決に有効性があるのかを検証していきたいと思っています。

### ①猪飼隆介

#### ②枚方信用金庫

③大阪府枚方市に本店を置く枚方信用金庫で、地方創生の取組「近居住み替え促進事業”巡リズム”」に関する業務を担当しています。巡リズムは空き家対策や老朽化した建物をリノベーション等で活用する取組だけでなく、地域の方の「住まい」と「暮らし」に関するお悩みを聞き取り、専門家につなぐことで解決していく取組です。研究テーマは公民連携による老朽化した公営住宅の建替えについて民間事業者及び金融機関との関わり方について研究をしたいと考えています。

### ①高山哲弥

③まちづくり、地域コミュニティ活性化に関心をもってしています。修士課程での研究テーマは新型コロナウイルス感染症と観光まちづくりです。新型コロナウイルスによって観光地は大きな影響を受けました。その中でも従来から観光まちづくりに取り組んでいる地域では何らかの強みがあるのではないかとという仮説のもと、調査研究をしていきたいと検討しています。

### ①松井秀次

#### ②城陽市消防本部

#### ③消防広域化に関する研究

消防機関においては、災害や救急事案に対し初動の対応が大変重要となる。初動出動部隊が少ない小規模消防本部においては、国が消防広域化を推進している。そのことから、小規模消防本部における消防広域化への方向性を研究するものである。

### ①橋爪明日香

#### ②NPO 法人 OurPlanet-TV 理事、NPO 法人 FM わいわい理事

③私は映像ディレクターとして世界中の小さなコミュニティラジオの活動を取材し、インドネシアでの災害ラジオ立ち上げに関わってきました。大学院ではコミュニティ放送における子ども番組制作の研究を進めています。趣味は登山です。

### ①北村達也

#### ②奈良県庁(大和ブランド推進協議会推薦)

③森林経営管理について、これからの日本の森林はどうあるべきか。もっと言うと、森林の川上から川下までの流れはどうあるべきか。をこの一年でしっかり考えたいと思っています。そのための法整備や内容といったことも含め、しっかりと研究し、先生方にもご指導頂こうと思っています。みなさんの足手まといにならないよう頑張りたいと思います。

### ①寺本俊孝

#### ②司法書士(寺本司法書士事務所)

#### ③研究テーマ「DAO(分散型自律組織)の法律論」

DAO(ダオ)をご存知でしょうか? DAOは分散型自律組織のことで、ブロックチェーンやスマートコントラクトというテクノロジーとの融合により「革命」と呼ぶにふさわしい全く新しい組織形態です。未来への扉になる可能性を秘めていますが、その革命的な新しさ故に、法的に未知な部分が多いDAOを研究します。



①名前 ②所属 ③研究テーマ・関心のある分野

## 水曜日クラス



### ①森田龍司

#### ②朝来市議会

③議員として、行政サービスを住民ニーズに合わせていくことや、市民の生活を守り暮らしにくさを解決する地域貢献について考えています。また、新たな文化を高め、新しい時代にふさわしい価値の創造が求められています。まちのデザインについての研究も考えています。

### ①可児卓馬

#### ②公益財団法人京都地域創造基金 専務理事・事務局長

③研究テーマは高齢者の相続意識についてです。特に人生最期の迎え方とその準備の心構えについて関心があります。終活が広まり葬儀が少しずつ多様になっています。人生最期に自分らしさを出せるのは葬儀だけでは無いはず。高齢者の相続への考え方と歩んできた人生の関係を研究します。

### ①笠谷洋佑

#### ②大津市議会議員

③18歳選挙権が導入され、学校現場での主権者教育も展開されているが、若者の政治への無関心や低投票率には歯止めがかからない。これまでの若者と政治のかかわりや、現在の主権者教育について研究をし、その課題や可能性について明らかにしたい。

### ①賈倩倩(カセンセン)

②興味のある分野は環境分野特にごみ分別や廃棄物について、研究テーマは生活ごみの分別収集における女性の役割—上海市の環境 NGO「緑主婦」を例に—です。

### ①吉川絢菜

③非営利組織におけるデジタルマーケティングの可能性を研究しています。特に、インターネット広告や SNS などを用いた、デジタル上での情報発信に興味があります。社会的利益を追求する日本の非営利組織がデジタル上で有効的な情報発信を行うために、取り組むべきデジタルマーケティングの在り方を示していきたいと考えています。

### ①福島麻斗

②防災・自然災害の危機管理や地域復興に関心があり、それらを学び、研究しています。最近では、被災者の生活再建に関心があり、研究を進めています。現時点の法制度や行政の体制では、本場に支援が必要となる被災者に支援が届かないことが起こってしまうのです。被災者を「誰一人取り残さない」、そのような政策のあり方を見出したいと考えています。

### ①郭文軒

②研究テーマは南京市住民の生活ごみの分別排出の現状に関する研究です。一方、環境政策に関する分野に興味があります。

### ①李欣桐(リシントン)

③研究テーマは「京都市伏見区深草西蒲町における異和共生まちづくり」です。留学生として、中国人が多いこの西蒲町では、日中両国の良好の関係を作り、互いの文化に触れ合い、共に生活できるようまちづくりに興味があります。これからどうぞよろしくお願ひします。

### ①門口弘樹

#### ②京都信用金庫

③研究テーマ、中小企業で働く人の『働きがい』とは何か。現在、中小企業は人口減少による人材不足や行き過ぎた資本主義、グローバル化等により、そこで働く人の意識が大きく変化していると感じています。そこで、昨今注目されているパーパス思考を中小企業にも掲げることで、現代にあった『働きがい』を創出し、中小企業の活性化、はたまた地域性を高めることが可能ではないのか考察を行います。

### ①胡榮程

②山東省の農村などの過疎化地域の高齢化が地域経済に及ぼす影響とその対応政策に関する研究です。



2022年3月、31名（政策学研究科17名、法学研究科7名、経営学研究科5名）が修士課程を修了されました。今後のさらなるご活躍を期待します。

## 修了生の今

### 政策学研究科2018年修了

**片桐 悠 さん**  
 （徳島県上勝町地域おこし協力隊）



大学院を卒業して4年、久しぶりに大学を訪れると懐かしい景色の中にも、初めて見る建物や設備があり、驚きと共に時間の経過を改めて感じました。

私は今年の3月に前職を辞めて、6月から縁あって現在の仕事に転職。現在、ワーケーションプログラムの開発やスマートフォンを活用した集落内における情報共有の仕組みづくり、地域のつながりづくりに関する実践活動や研究などに取り組んでいます。これらの活動は、町内外で長年まちづくり活動に従事されてきた方に、指導やアドバイスをいただきながら進めています。

それぞれの活動を進める中で、地域内外の様々な方と話す機会があります。相手の考えを聞き自身の思ったことを伝える際、学生時代の社会課題に関する学びと、前職での広報担当者としての経験があったからこそ言えた意見や、気付けた指摘もあったなと感じています。

人生、少し遠回りをしたかなと思った時も過去にはありましたが、今ならどんな経験でも役に立つなと思えます。ですので、これからも様々な経験を積み重ねながら、地域おこし協力隊として、また、地域公共人材としても活躍できるように頑張っていきます！

### 法学研究科2019年修了

**興津 慶 さん**  
 （トランジション・ピリオド  
 行政書士事務所）



私は2019年3月に修士課程を修了した翌年、向日市で行政書士事務所を開業。お客様の人生の過渡期に寄り添い、その事業計画やライフプラン立案の支援を基点とした法務サービスをご提供しています。

大学院での研究活動では、統計数値を根拠としてエビデンスを立てる姿勢と、物事を穿ち俯瞰して考察する姿勢の2つが身につきました。

この姿勢は、現在お客様の事業計画を立てる際に役立っています。例えば市場動向の分析の際は数字による根拠づけを行います。実験による統計数値からエビデンスを導く作業に取り組んだ経験から、効率的なデータ収集ができるようになりました。

また、事業計画書の説得力の弱い点や矛盾点に気づいたり、その作成段階で精緻な文量の調整や言葉選びをする際、論文の清書に格闘した成果を感じます。

研究論文と事業計画書では性質が大きく異なりますが、研究活動と事実証明に関する書類を作成する行政書士の仕事とは、その姿勢において共通点が多々あることを日々の業務で実感しています。

## 編集スタッフ紹介



グローバル通信59号は、前年度担当の杉山和則・田中智朗と本年度担当の吉田匠・吉川絢菜の4名で編集いたしました。2022年度も魅力あるグローバル通信をみなさまへお届けできるよう努めます。よろしくお願いいたします。

## 事務局インフォメーション

### ○協定先懇話会

日時：2022年7月20日(水) 12:40~14:10(予定)  
 開催形態：オンライン

### ○地域公共人材総合研究プログラム 推薦入学試験要項のお渡しについて

7月下旬~8月上旬を目途に、協定先ご担当者様へ配送予定です。